

## 埼玉県住宅供給公社「エコ<sup>す</sup>住まーとプロジェクト」分譲販売スタート! アキュラホーム設計・施工の「エコモデルハウス」オープンのお知らせ

このたび、埼玉県住宅供給公社(本社:さいたま市浦和区、理事長:水島 茂)と、株式会社アキュラホーム(本社:東京都新宿区 社長:宮沢 俊哉)をはじめとする民間企業 6 社が共同で実施する「エコ住まーとプロジェクト」( 1)の分譲販売が 4 月 29 日(木・祝)からスタートしました。これにあたり、エコに関する新しい住まいのあり方や賢い住まい方への理解と普及を目的としたモデルハウス「エコ住まーとハウス」を建設し、4 月 28 日(水)に竣工式典がおこなわれました。

このモデルハウスのコンセプトは「自然の力を活かした暮らし豊かな住まい」です。モデルハウス建設にあたってはコンペが実施され、当社が提案した“自然と共生しながら CO<sub>2</sub> 排出を削減する工夫”が高く評価され、当社が設計・施工を担当しました。モデルハウスの特徴は、四季を通じて風や光などの自然とともに豊かに暮らしてきた先人の知恵(自然風利用・日射遮蔽・日射熱利用など)に、長期優良住宅・太陽光発電システム・エネファームなどの最先端技術を融合した新しいスタイルのエコ住宅となっています。

当社では、“日本の住まいを安くする”というミッションのもと、主宰する全国約 450 社のホームビルダーネットワーク「ジャープネット」とともに、1,000 万円台というお求めやすい価格帯で、2003 年に、次世代省エネ住宅や太陽光発電搭載オール電化住宅を、また、2007 年には国の認定基準を高水準でクリアした長期優良住宅をいち早く開発・販売してきました。これらの実践を通じてエコ住宅に関するノウハウを積み重ねてきた結果、昨年 11 月には「住宅・建築物省 CO<sub>2</sub> 推進モデル事業」( 2)への提案採択や、また、今年 3 月には、(財)建築環境・省エネルギー機構より「環境共生住宅認定(システム供給型)」( 3)を受けるなど、これまでの取り組みが公的にも評価されています。

### モデルハウス「エコ住まーとハウス」の特徴

自然の豊かさを活かす環境デザイン(詳細は次頁参照)

軒・庇のデザインや開口部の計画など、建物そのものに日射熱利用、日射遮蔽や自然風利用の工夫を図る設計手法(環境デザイン)を採用。また、外構についても、落葉樹と常葉樹を四季の風や日射、暮らし方とあわせて植樹。

高い住宅性能

住宅性能表示制度において、「耐震等級(損傷防止・倒壊防止)」をはじめ「耐風等級」、「劣化対策等級」、「維持管理対策等級」、「ホルムアルデヒド発散等級」、「省エネルギー等級」の 7 項目で最高等級に対応。

CO<sub>2</sub>・光熱費削減

6kw の大型太陽光発電システムと家庭用燃料電池エネファームによるダブル発電で約 5.6t の CO<sub>2</sub> を削減。  
(ブナの森林で約 12,000 m<sup>2</sup>/年の CO<sub>2</sub> 吸収量相当)  
ガス料金・電気料金の削減(年間約 99,000 円の収入 売電を含む)

長く住み続ける

スケルトン & インフィル(S & I)の技術を取り入れ、外周部を中心に耐力壁を配置した設計により、空間の自由度が高く、将来のライフサイクル変化による間取り変更に容易に対応できる。  
これにより、作っては壊すフロー型ではなく、ストック型の「長く住み続ける家」として廃棄物削減に寄与。

埼玉県産の木材を使用した地産地消の取り組み

運搬による輸送エネルギーを削減するとともに、地域における木の文化の醸成、地域経済の活性化に貢献。  
(構造材の 85% が県産材を使用)

## 自然の恵みを活かす4つの環境デザイン

### 風の流れをデザインする

風向きは、その土地や地域の特性によって異なる。そこで、空気の流れをあらかじめシミュレーションして、風を感じることができるように快適性を高めた。涼風を地窓から室内へ効率よく採り入れ、2階の窓より自然排出し、屋内に最適な風の通り道をつくることで、夏は涼しい空気を室内に引き込むことができる。

### 外環境をデザインする

#### <グリーンウォール>

グリーンウォールとは、敷地内で快適な外環境を作り出す緑のカーテンのことで、夏は木陰を通る風が涼しい空気を創り、北側の常葉樹は冬の北風を防ぐ。

#### <快適スポット>

快適スポットは、室内と外部空間との中間領域であり、建物内へ快適な外環境を繋ぐことを目的として設置。例えば、夏には雨水タンクで貯めた水を庭に撒く蒸散冷却効果や、芝生による照り返しを防ぐ効果など快適な外環境を創る。

### 陽をデザインする

南側の庭に落葉樹を植えることで、夏は室内へ入る強い日射をブロック。太陽の入射角が低い冬は、陽射しを遮ることなく室内の奥まで光を招き入れることができる。自然光を建物内へ上手に採り入れることで、日中時の明るさを確保し、照明器具やエアコンを効率的に使用することができ、省エネ生活が送れる。

### 豊かさをデザインする

リビングには、生活シーンに応じた「照明デザイン」を採用。日中は太陽光を室内に十分に採り込むことで、自然の陽光を愉しむことができる。また、夜間はLED照明を用いて空間全体を照らしたり、程良い暗さによるリラクゼーションを演出するなど、豊かさと経済性を両立。

## モデルハウス「エコ住まーとハウス」の外観・内観



モデルハウス外観



モデルハウス内観

### <場所>

住所: ファミリータウン東大宮団地内(公社分譲団地)

埼玉県さいたま市見沼区春野3丁目1580番100

交通: JR宇都宮線「東大宮」駅 東口

国際興業バス「ファミリータウン先回り循環」行きバス約10分、「ファミリータウン西」下車 徒歩2分

### <モデルハウス概要>

構造: 木造2階建て

延べ床面積: 120.90㎡(1階 56.31㎡、2階 64.59㎡)

### 竣工式典について

竣工式典は、さいたま市見沼区の公社分譲団地(ファミリータウン東大宮)内のモデルハウス前にて、来賓や関係者など約50名を集め、4月28日(水) 午前11時よりおこなわれました。

式典では、主催者を代表して埼玉県住宅供給公社・水島理事長より、「近年、地球環境保護が叫ばれる中、住民一人ひとりが普段の暮らしを変えていかなければならない。但し、それは節約や我慢というストイックなものばかりではなく、地球環境に配慮しながら快適性を損なわず、本当の豊かさを追求する住まいこそが、これからの環境時代に合った、“スマート”な暮らし方であると思う。今回のプロジェクトは、この“スマート”をテーマに進めてきた」とのとの話がありました。このあと来賓祝辞に続き、来賓・共同事業者によるテープカットがあり、モデルハウスの内覧会が実施されました。



埼玉県住宅供給公社・水島理事長 式辞



来賓・共同事業者によるテープカット

### 1: エコ住まーとプロジェクトとは

「エコ住まーとプロジェクト」とは、埼玉県住宅供給公社が保有する、さいたま市見沼区(ファミリータウン東大宮)の宅地9区画(156.53㎡～168.35㎡)を今年4月29日よりエコ住宅用として埼玉県民に分譲し、協賛企業として採用された当社を含む民間住宅会社3社が住宅建設を請け負う共同事業

なお、宅地購入者には、東京ガス株の「エネファーム」や太陽光発電パネルなどを設置したエコ住宅を建設することを条件に、最大200万円まで宅地価格を減額し、エコ住宅の建設を支援。

モデルハウス「エコ住まーとハウス」は、公社と、当社・東京ガス株・(株)ホンダソルテックとの共同事業により、公社保有地に建設し、2年間一般に公開。

「エコ住まーとプロジェクト」事業概要・物件概要などは、埼玉県住宅供給公社ホームページでご確認ください。  
(<http://www.saijk.or.jp/>)

### 2: 住宅・建築物省CO<sub>2</sub>推進モデル事業とは

国土交通省が実施する平成21年度第2回「住宅・建築物省CO<sub>2</sub>推進モデル事業」新築戸建住宅提案部門に応募した「つくり手・すまい手・近隣が一体となった地域工務店型ライフサイクル省CO<sub>2</sub>木造住宅」が採択。採択を受けた提案のコンセプトは以下3点。

住宅のライフサイクルにおける省CO<sub>2</sub>対策

建設・居住・解体といった各段階でCASBEEライフサイクルCO<sub>2</sub>評価の試算によるとCO<sub>2</sub>が41%削減。試算対象に入っていない製造・流通段階の取り組みを含めると41%+ の削減効果となる。

つくり手・すまい手・近隣が一体となった省CO<sub>2</sub>対策

つくり手においては、資材配送を自社物流センターの計画配送により搬入回数を削減。また地域産材活用による地産地消の実現やガラス繊維協会によるマイスター認定取得者による断熱工事の実施、近隣住戸への影響を考慮した街区レベルでの省CO<sub>2</sub>設計の実施。すまい手へは、省CO<sub>2</sub>的な住まい方を啓発するツール提供とコーチングの実施。近隣の住居者へは、現場見学会を通じた情報発信や勉強会の開催などを実施。

主宰する全国ホームビルダーネットワークへの段階的な普及体制を構築

第1ステップとしてアキュラホームによるモデル住宅の建設。第2ステップをジャブネット内の牽引役となるリーディングメンバーを組織して取り組むことによる地域展開とし、以降ジャブネットへ段階的に普及させる体制を構築。

本提案に対する評価機関の概評

様々な省CO<sub>2</sub>技術をバランス良く導入しており、ライフサイクルCO<sub>2</sub>削減効果も高く、住宅コストもリーズナブルで普及への期待が大きい点を評価した。

工務店ネットワークへの段階的普及を意図した第1ステップとして提案されており、第2ステップ以降の全国展開に期待する。

### 3: 環境共生住宅認定とは

(財)建築環境・省エネルギー機構より「環境共生住宅認定(システム供給型)」を、今年3月31日に受けた。環境共生住宅とは、地球環境を保全する観点から、エネルギー・資源・廃棄物などの面で十分な配慮がなされ、また、周辺の自然環境と親密に美しく調和し、住まい手が主体的に関りながら、健康で快適に生活できるよう工夫された、環境と共生するライフスタイルを実践できる住宅、および、その地域環境のこと。

今回の認定は、環境共生住宅(システム供給型)として、環境共生住宅を工務店ネットワークの中で、確実に施工・管理し、供給する点が評価され認定を受けた。

「環境共生住宅認定」の概要などは、(財)建築環境・省エネルギー機構ホームページでご確認ください。  
(<http://www.ibec.or.jp/nintei/kyousei/index2.html>)

< 本件について報道関係からのお問い合わせ先 >

株式会社アキュラホーム 広報課 山本・堀越 TEL:03-6302-5010

住所: 東京都新宿区西新宿2-6-1 新宿住友ビル34F

写真データは右記URLよりダウンロードすることができます。 URL: <http://www.aqura.co.jp/news.html>